

ユニット	■題材名 ●教材 ・参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
A	オリエンテーションまたは <追加教材> オリエンテーション: 入学時のガイダンス 校歌 他	1	表現するための基礎的な技能や奏法を身に付け、曲想を感じ取って表現しよう												
	■歌詞の内容や曲想を捉えて ●青空へのぼろう p.4 ●アニー・ローリー p.10 ・Let's Sing! 歌うための準備 p.6 ・Let's Sing! 変声と混声合唱「こげよマイケル」 p.12	3		◎	○			◎	◎						
	器楽:リコーダー p.4~13 各部の名称 姿勢とかまえ方/指穴の番号と指番号 タンギング/一つの音で吹いてみよう チューニング 左手で吹こう 右手を加えてみよう サミング <こげよマイケル><エーデルワイス> <ソナタK.331>	3													

評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌詞の内容や曲想、リコーダーの特徴に関心をもち、基礎的な技能や奏法を身に付けて表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	声やリコーダーの音色、速度の設定や変化、主旋律と他の旋律、繰り返される旋律、転調、主旋律と他の旋律との関わり、和音、強弱の設定と変化、二部形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取りリコーダーの特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想、リコーダーの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、基礎的な技能や奏法を身に付けて表現している。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

年度始めのオリエンテーションを1時間設定します。その後、参考教材を活用しながら歌唱の基礎的な技能を確認する学習を展開します。器楽の学習ではリコーダーの基礎的な技能を身に付けながら、「こげよマイケル」「エーデルワイス」を歌唱することと関連付けて取り扱うことができます。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーションまたは <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
C	■ 言葉のリズムや唱歌を生かして ● 楽しいリズム曲をつくろう p.52 ● 太鼓のための音楽をつくろう p.60 ・ Let's Try! 言葉のリズムで楽しもう 「くいしんぼうのラップ」 p.54	3	言葉のリズムや全体のまとまりを感じ取り、声部の役割を生かして表現を工夫しよう												
	器楽: 太鼓 p.54~59 太鼓の演奏の例 太鼓の種類/ばちについて かまえ方と打ち方 基本のリズムを打ってみよう	2													

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
言葉のリズムや反復、変化、対照などの構成、全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくったり合わせて演奏したりする学習に主体的に取り組んでいる。	言葉がもつリズム、地打ちのリズムや例示のリズム、速度の工夫、パートの重なり方、地打ちと例示のリズムとの関わり方、強弱の工夫、反復による全体の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ながら、言葉のリズムや反復、変化、対照などの構成、全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくったり合わせて演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	言葉のリズムや反復、変化、対照などの構成、全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくったり演奏したりしている。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

創作教材「楽しいリズム曲をつくろう」を取り扱い、身近な食べ物の言葉のリズムを生かしてリズム曲をつくりパートで表現します。また、それと関連させて Let's Try! 言葉のリズムで楽しもう「くいしんぼうのラップ」の表現を工夫することができます。また、「太鼓のための音楽をつくろう」では、指定された五つのリズムで音楽を構成し、器楽と関連させて表現します。

トピック	■ 題材名 ● 教材 ・参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞								
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞						
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ				
D	■ 言葉と旋律との関わりを感じ取って ● 夏の思い出 p.16 ● 赤とんぼ p.20 ● 日本語の抑揚を生かした旋律をつくらう p.56 ・Let's Try! 指揮をしてみよう p.22	4	言葉と旋律との関わりを感じ取って表現を工夫しよう		○	◎												

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
曲想や言葉の特性に関心を持ち、それらを生かして歌ったり簡単な旋律をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	拍子、速度の設定、言葉の抑揚と関わる旋律、強弱の設定、二部形式、一部形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌ったり旋律をつくったりするかについて思いや意図をもっている。	曲想や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり簡単な旋律をつくったりする。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

言葉と旋律との関係を捉え、歌唱の表現を工夫したり旋律をつくったりする学習を展開します。歌唱共通教材である2曲を比較し、拍子や速度、旋律のまとまりや形式を捉えて表現を工夫したり、それらを生かして短い旋律をつくったりすることができます。また、参考教材を用いて指揮の活動を取り入れることが可能です。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞								
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞						
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ				
E	■ 郷土の民謡や芸能の魅力 ● ソーラン節 p.24 ● ◎かりぼし切り歌 p.25 ● ◎日本の民謡と芸能 p.40	3	郷土の民謡や芸能の特徴を理解し、我が国の音楽の多様性を感じ取ろう		◎	○												◎

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割、我が国や郷土の伝統音楽の特徴と音楽の多様性に関心を持ち、それらを生かして歌う学習や鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	声の出し方やのびし方、拍節の表れ方、民謡に使われる様々な音階、コブシや節回しなどの装飾、歌い合わせ方、音頭一同形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲種に応じた発声や声部の役割により、言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲種に応じた発声や声部の役割により、言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	声の出し方やのびし方、拍節の表れ方、民謡に使われる様々な音階、コブシや節回しなどの装飾、歌い合わせ方、音頭一同形式、様々な民謡の形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、我が国や郷土の伝統音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

<参考> 題材の学習展開のイメージ

声や楽器の音色や合わせ方などの特徴、くらしと音楽の関わりなどを理解して、郷土の民謡や芸能などを比較することで共通性や固有性などを感じ取って表現したり鑑賞したりします。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーションまたは <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
F	■ 歌詞の内容や曲想を感じ取って ● 海が明けるよ p.26 ● 希望という名の花を p.28	4	曲想や声部の役割を感じ取り、それらを生かした表現を工夫しよう												
	歌のアルバム: <COSMOS p.70>	3													

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
曲想や声部の役割に関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	速度の設定や変化、主旋律と他の旋律、主旋律と他の旋律との関わり、和音、強弱の設定と変化、楽曲全体の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想や声部の役割を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想や声部の役割を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

選択可能な複数の合唱曲を教材とし、学校行事(文化的行事や卒業式)などを意識した学習を展開します。生徒の実態に応じて、合唱曲を選択し、パート練習から全体の表現を工夫することができます。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーション または <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞								
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞					
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ			
H	■ 箏の表現を味わいながら ●◎ 箏曲「六段の調」 p.42 ●◎ 日本とアジアをつなぐ音 p.46 ● Let's Try! 箏(こと)を弾いてみよう「さくらさくら」 p.58	4	箏の表現を味わいながら、音楽の特徴を生かして表現したり鑑賞したりしよう					○	◎									◎
	器楽: 箏 p.30~35 各部の名称 柱の立て方/爪/調弦法 姿勢とかまえ方/親指による基本的な奏法 <さくらさくら p.34>	3																

評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
箏の特徴、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と音楽の多様性に関心を持ち、基礎的な奏法で演奏する学習や鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	箏の音色、拍節の表れ方、平調子を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏の特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な基礎的な奏法を身に付けて演奏している。	声の音色、さまざまな楽器の音色、拍節の表れ方、速度の変化、平調子、アジア地域の諸民族の音楽に使われる様々な音階、旋律やリズムの重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

<参考> 題材の学習展開のイメージ

箏曲を鑑賞し、「さくらさくら」を演奏したり、我が国とアジアに伝わる音楽や楽器の共通性や固有性を踏まえて鑑賞したりする学習を展開します。段物である「六段の調」の特徴を聴き取り、平調子で「さくらさくら」を演奏することで、箏の音色を味わいながら学習することができます。また、朝鮮半島に伝わる「カヤグム」と聴き比べたり、我が国とアジア地域の音楽との共通性を理解して鑑賞したりします。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーションまたは <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
I	■ 曲想を豊かに感じ取って ● 四月のいのちの歌 p.30 ● ◎「春」から第1楽章 p.32	4	曲想を感じ取りながら声部の役割を生かして表現したり、音楽の構成を理解して鑑賞したりしよう												
	歌のアルバム:<明日を信じて p.76> <故郷(混声二部合唱) p.80>	2													

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌詞の内容や全体の響き、音楽の構造と曲想との関わりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習や鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	速度の設定、主旋律と他の旋律、主旋律と他の旋律との重なり方、強弱の設定と変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	弦楽器やチェンバロの音色、ソネットごとの旋律、旋律の重なり方、強弱の変化、リトルネッロ形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

<参考> 題材の学習展開のイメージ

「『春』から第1楽章」を鑑賞することを基盤とし、「春」の旋律が用いられている合唱曲を表現する学習を展開します。鑑賞では、感じ取った曲想から自分がおもしろいと感じた部分を紹介する活動を設定し、より主体的に鑑賞するように工夫することができます。また、選択可能な複数の合唱曲を教材とし、学校行事(文化的行事や卒業式)などを意識した学習を展開することができます。